

地域と学生をつなげる新たな小樽ガイドブック「たるぽーと」の制作 プロジェクト代表者:大津 晶

◎プロジェクトの概要

本学の学生の半数以上が、札幌市などの市外から通学し、地域の商店や市民との交流が希薄になった結果、在学期間中に小樽の歴史や魅力に触れる機会を逸している学生が多くなっています。

小樽市は平成26年3月に施行した「小樽市自治基本条例」は、協働まちづくりの主体としての“市民”の定義に「市内の学校等に通学する学生」を含んでいますが、現状で本学学生に「小樽市のまちづくりの担い手」としての認識が広まっているとは言い難い状況です。

そこで、本プロジェクトは高知に起源を持ち全国に広がった「ランチパスポート」の事例に学び、小樽商科大学の学生が地域に赴いて市民との交流を増やしそれらを通じて小樽の歴史と地域の魅力を知り、合わせて地域課題への理解と愛着を深めるきっかけを増やすことを目的としたガイドブックを製作し学内に広く配布することとしました。

◎プロジェクトの成果

地域の歴史やそれを伝える場所と人、学生を暖かく迎えていただける昔馴染みの店、新生に便利な生活情報などに加え、小樽市企画政策室と連携して製作した自治基本条例などを纏め、総ページ数90ページを超える「たるぽーと」を製作し配布しました。本プロジェクトの真の目的は、ガイドブックの制作ではなくそれを通じた学生と地域の交流の促進ですので、今後も引き続き効果の検証を行うこととしています。

北海道新聞 平成27年3月20日(朝刊)

